Claude Certified Developer – Professional

試験ガイド

バージョン1.0 · 発効：2026年11月 · 試験コード：CCDV-P · 本ガイドは予告なく変更されることがあります。

1. この認定資格について

Claude Certified Developer – Professional認定資格は、Claudeを活用したアプリケーション、エージェント、ワークフローを本番環境で大規模に運用できることを証明するものです。Claude Certified Developer – Foundations認定資格の範囲を土台とし、実際のユーザーにサービスを提供している稼働中のClaudeシステムについて、信頼性、品質、コスト、安全性に責任を負う経験豊富な技術専門職を対象としています。こうした専門職は、自らの監督のもとでエンジニアリング作業を行うコーディングエージェント群を指揮する機会も増えています。

本ガイドは、受験の準備をする受験者にとっての正式な参照資料です。資格の目的、対象者、試験形式とコンテンツのブループリント、採点、ポリシー、およびすべての受験者が同意する受験規則について説明します。試験を予約する前に、全文をお読みください。

2. 資格の目的と価値

Claude Certified Developer – Professional認定資格の主な目的は、Claudeベースのシステムを本番環境で適切に運用するために必要な高度な知識、スキル、能力について、独立した評価を提供することです。この資格を取得することで、資格保有者がデプロイ済みのClaudeアプリケーションとエージェントの運用を担えることを、雇用主、顧客、チームに示すことができます。具体的には、計装、複雑な障害の診断、評価によるリリースのゲーティング、フリート規模でのコストとレイテンシの管理、敵対的な入力に対するツールを使用するエージェントの堅牢化です。

この資格を取得した受験者は、次の分野の知識を効果的に適用できることを示せます。

- 本番環境レベルのオブザーバビリティ（トレーシング、メトリクス、ロギング）をClaudeシステムに組み込み、品質、コスト、ドリフトをモニタリングする
- マルチターンおよびマルチエージェントのシステム全体にわたる複雑な障害モードを診断し、インシデント対応を主導する
- キャリブレーションされたLLM-as-judgeパイプライン、回帰テストスイート、CI/CDの評価ゲートを含む評価システムを構築する

- プロンプトとモデルの変更を段階的に提供する、回復性の高い高スループットの統合レイヤーを設計する
- 長時間稼働するエージェントや知識に根拠を置くエージェントの精度とコスト効率を保つ、コンテキスト、メモリ、検索のアーキテクチャを設計する
- モデルルーティング、キャッシング戦略、レイテンシエンジニアリングにより、フリート規模でコストとレイテンシを最適化する
- ツールを使用するエージェントに、多層的なランタイムガードレールと多層防御のセキュリティを実装する
- チェックポイント、セッションの永続化、障害の封じ込めを備えた、耐久性のあるマルチエージェントシステムをオーケストレーションする
- 検証、AIコードレビュー、無人実行を含め、ソフトウェア提供のためのコーディングエージェント群を運用する

3. 対象者

この認定資格は、本番環境でClaudeを活用したシステムを担当する技術専門職を対象としています。主な対象者は、シニアおよびスタッフレベルのソフトウェアエンジニア、実務の範囲をLLMシステムに広げているプラットフォームエンジニアやサイトリライアビリティエンジニア（SRE）、そしてデプロイ済みのClaudeアプリケーションの信頼性、品質、コスト、安全性に責任を負うソリューションエンジニアです。

Professionalの受験者は、構築して出荷するだけにとどまらず、運用を担います。稼働率と品質のサービスレベル目標（SLO）に責任を持ち、インシデントに対応し、アプリケーションやテナントをまたいで支出を管理し、敵対的な入力に対してエージェント型システムを堅牢化します。また、自らの監督のもとでエンジニアリング作業を行うコーディングエージェント群を指揮する機会も増えています。受験者は通常、医療、金融サービス、政府機関、エンタープライズSaaSなど、本番環境の信頼性とセキュリティへの要求が高い環境で業務を行っています。

想定される受験者は、Messages API、Agent SDK、Claude Managed AgentsなどのClaude APIとSDK、およびClaude CodeとMCPを日常的に使用しており、ファーストパーティAPIでのデプロイとクラウドプラットフォームでのデプロイの違いを理解しています。オブザーバビリティスタック、自動評価ゲートを備えたCI/CDパイプライン、クォータ、分離、コスト配分の要件があるマルチテナントのエンタープライズ環境に精通しています。また、LLMを利用したチャットボットや要約ツールだけでなく、ツールを使用するエージェントを少なくとも1つ本番環境に構築・デプロイした経験があります。

4. 試験の概要

資格	Claude Certified Developer – Professional
試験コード	CCDV-P
問題数	70（うち60問が採点対象、10問が採点対象外）。採点対象外の問題は明示されず、スコアに影響しません。
出題形式	シナリオに基づく択一式および複数選択式の問題。各問題に、選択する解答の数が明記されています
制限時間	120分
実施方法	監督付き：プログラムのポリシーに従い、オンライン監督付きまたはテストセンター、あるいはその両方
前提条件	なし。Claude Certified Developer – Foundations認定資格は準備として推奨されますが、必須ではありません。資格は試験の成績のみに基づいて授与されます。
合格点	100–1,000のスケールでスケールスコア720
受験料	$175 USD
有効期間	資格が授与された日から12か月
結果の通知	合格／不合格とスケールスコア（100–1,000）。スコアレポートには分野別の正答率も記載されます

5. 試験内容の概要（ブループリント）

試験ブループリントは、測定対象となる内容分野とスキル、および試験における各分野のおおよその配点比率を定めています。配点比率は、職務タスク分析と内容妥当性の調査によって決定された、十分な能力での業務遂行に対する各分野の相対的な重要度を反映しています。パーセンテージは、採点対象の問題のうち各分野から出題されるおおよその割合を示します。

分野	内容分野	配点比率
1	高度なエージェントアーキテクチャとオーケストレーション	17%
2	本番環境の統合、信頼性、知識グラウンディング	20%
3	オブザーバビリティと本番環境のモニタリング	12%
4	高度なデバッグとインシデント対応	10%
5	評価エンジニアリングと品質保証	12%
6	大規模環境でのコストとレイテンシの最適化	8%
7	ランタイムガードレールと本番環境のセキュリティ	11%
8	ソフトウェア提供のためのエージェントフリート運用	10%
合計		100%

分野別の詳細な目標

以下の各分野には、試験問題の作成基準となるスキルを示しています。スキルの説明は、測定対象となる知識と能力をまとめたものです。

分野1：高度なエージェントアーキテクチャとオーケストレーション（17%）

マルチエージェントのオーケストレーション

本番環境のマルチエージェント設計とエージェント間の障害について、オーケストレーションパターンを評価する。スーパーバイザー／ワーカー階層、サブエージェントの並列ディスパッチ、委任とコンテキスト分離の境界、エージェント間通信、human-in-the-loopと承認のフローを含む。

耐久性のある実行と状態管理

中断、再起動、モデルバージョンの変更を経ても動作を継続する必要がある長時間稼働のエージェントに、セッションの永続化、チェックポイント、再開可能性、メモリアーキテクチャのパターンを適用する。

大規模環境でのアーキテクチャの選択

本番環境のコスト、信頼性、品質のデータを評価して、稼働中のシステムをワークフロー型パターンとエージェント型パターンの間で移行させるべきかを判断し、チームが採用すべきエージェントハーネス、フレームワーク、再利用可能なパターンの標準を選択する。

コンテキストとメモリのアーキテクチャ

コンテキストの上限やコストの上限に近づいている長時間稼働のエージェントについて、コンテキストポリシーの選択肢を評価する。コンテキスト圧縮とコンテキスト編集、永続メモリ、会話の途中でキャッシュを損なわずに指示を変更する方法、大規模なツールカタログをコンテキストウィンドウの外に置くツール使用の手法を含む。

分野2：本番環境の統合、信頼性、知識グラウンディング（20%）

Claudeサービスの信頼性エンジニアリング

本番環境のClaude統合における回復性パターンを評価・適用する。リトライとバックオフの設計、サーキットブレーカー、グレースフルデグラデーション、およびモデル間、リージョン間、プラットフォーム間のフォールバックを含む。フォールバックでは、レート制限、安全性による拒否、コンテキストウィンドウによる停止を区別し、プラットフォームごとの機能の差異を考慮する。

スケールとスループットの管理

大量のClaudeワークロードに対するレート制限戦略、キューイングとバックプレッシャー、バッチパイプラインの設計、マルチテナントのクォータと分離、キャパシティプランニングを分析し、制約となっている要因がレート制限、トークンスループット、バッチの経済性のいずれであるかを特定する。

本番環境のMCPと変更管理

MCPサーバーのデプロイ、モデルバージョンの移行、プロンプトの更新に、本番環境でのMCP運用と変更管理の手法を適用する。リモートMCPのデプロイと認証、ツールとスキーマのバージョン管理、動作の破壊的変更に対する移行テスト、プラットフォーム固有の構成の一貫性とゲートウェイ／ルーティングのアーキテクチャ、プロンプトのバージョン管理、ロールバックを伴う段階的ロールアウトを含む。

大規模な検索と知識グラウンディング

知識に根拠を置く本番アプリケーションの検索アーキテクチャを評価する。エージェント型検索とRAGのトレードオフ、チャンキングと埋め込みの戦略、ハイブリッド検索、リランキングを含む。また、出典の引用、不確実性の明示、確信度のシグナルなどのグラウンディングの手法を設計し、検索品質の障害を段階ごとに診断する。

分野3：オブザーバビリティと本番環境のモニタリング（12%）

テレメトリと計装

デバッグ可能性とプライバシーの要件のもとで、本番環境のClaudeシステムに計装の手法を適用する。エージェントループとツール呼び出しの分散トレース、トークンとコストのメトリクス、キャッシュパフォーマンスの診断、グラウンディングと推論のトレーサビリティ、構造化ログイベント、ゼロデータ保持（ZDR）などのプライバシー制約のもとでのコンテンツキャプチャの構成を含む。

本番環境のモニタリングとアラート

LLMを利用したサービスの本番環境のシグナルを分析し、サービスレベル指標（SLI）とSLOを定義し、アラートとダッシュボード（トークンとコストのテレメトリを含む）を設計し、品質のドリフト、動作の回帰、異常な使用状況を検出する。モデル更新後のドリフトも含む。

大規模なトレース分析

サンプリング戦略、集計、障害コホート分析を用いて大量のトレースデータを分析し、個々のトレースでは見えないシステム全体の問題を明らかにして定量化する。

分野4：高度なデバッグとインシデント対応（10%）

複雑な障害の診断

マルチターン、マルチエージェント、非決定的な障害を含む本番環境の複雑な障害について証拠を分析し、問題の発生源をモデルの出力、エージェントハーネス、ツール、データの中から切り分ける。障害の一種としてのモデルの拒否と、検索グラウンディングの障害も含む。

インシデント対応と学習ループ

LLMシステムの停止や品質の回帰が起きている間のインシデント対応の選択肢を評価する。トリアージ、緩和、ロールバック、コミュニケーションを含む。また、インシデントを回帰評価、モニタリングの対象範囲、ポストモーテムの知見に反映する。

分野5：評価エンジニアリングと品質保証（12%）

評価システムの設計

Claudeアプリケーション向けのオフライン評価システムを評価・設計する。ゴールデンセット、回帰テストスイート、動作チェック、CI/CDの評価ゲート、検索の適合率とグラウンディングの指標、プロンプト、モデル、エージェントの変更に対するリリース基準を含む。また、汚染、飽和、カバレッジの不足に対して、スイートの妥当性を長期にわたって維持する。

LLM-as-judgeのエンジニアリング

人間がラベル付けしたデータに照らしてLLM-as-judge評価器の品質を分析する。キャリブレーション、ルーブリックの設計、バイアスと位置の影響、評価者間信頼性、モデルバージョン間でのジャッジのドリフトを含む。

オンラインでの品質測定

オンライン評価の手法を用いて、本番環境のライブトラフィックで品質を分析する。ライブトラフィックのサンプリング、A/Bテスト、フィードバックループ、タスクの種類（抽出、生成、エージェント型、検索に根拠を置くもの）に合った指標の選択を含む。

分野6：大規模環境でのコストとレイテンシの最適化（8%）

大規模環境でのコストアーキテクチャ

使用量とコストのデータを用いて、フリートレベルの最適化戦略を評価する。コストのモデリングと予測、Claudeモデルファミリー全体にわたるモデルルーティングとカスケード、キャッシング戦略とキャッシュの診断、バッチとリアルタイムの経済性の比較、テナントごとの予算の適用を含む。

レイテンシエンジニアリング

レイテンシの目標値に照らしてClaudeアプリケーションのレイテンシプロファイルを分析し、最初のトークンまでの時間と全体のレイテンシを区別し、ストリーミング、ツールの並列実行、キャッシュのチェックポイント設定、effortレベルの調整を適用する。

分野7：ランタイムガードレールと本番環境のセキュリティ（11%）

ランタイムガードレールシステム

本番環境のエージェントのリスクプロファイルに照らして、多層的なガードレールアーキテクチャを評価する。入出力のフィルタリング、PIIのリダクション、フックによるポリシーの適用、破壊的なアクションの防止、本番システムを露出させずにツールとWebへのアクセスを許可するサンドボックス、承認ゲート、拒否の処理と安全のためのフォールバック、取り消しのできないアクションに対する決定論的な強制、偽陽性と偽陰性のチューニングを含む。

エージェント型システムの脅威対策と敵対的テスト

信頼できないコンテンツを処理する、ツールを使用するエージェントの攻撃対象領域を分析する。プロンプトインジェクション、ツールとメモリのポイズニング、データ流出の経路、安全でない自律性の条件、そしてプライベートデータへのアクセス、信頼できない入力、外部との通信という高リスクな組み合わせを含

む。また、OWASP Top 10 for LLM Applications、NIST AI Risk Management Frameworkとその生成AIプロファイルに基づいて、多層防御の緩和策、レッドチーム演習の設計、安全なMCP構成を適用する。

大規模環境でのID、シークレット、監査

本番環境のClaudeデプロイに、エンタープライズ向けのIDとシークレットの管理手法を適用する。エージェントのID、静的なAPIキーに代わるワークロードIDフェデレーション、認証情報とシークレットの管理、最小権限によるツールの権限設定、セキュリティに関わるエージェントのアクションの監査ログを含む。

分野8：ソフトウェア提供のためのエージェントフリート運用（10%）

エンジニアリング作業のための並列エージェントオーケストレーション

大規模なエンジニアリングタスクに対する並列ファンアウトのパターンを評価する。分離されたワークツリーで動く並列エージェント、タスクの分解、マージとコンフリクトの戦略を含む。また、フリートのテレメトリからフリートレベルの障害モードを診断する。

検証とAIコードレビューの運用

生成のペースがレビューを上回る提供パイプラインにおいて、検証の運用を分析する。シャドーモードで導入するAIコードレビュー、マージゲートとして使う前の人間によるレビューとのキャリブレーション、人間による監督の設計を含む。

無人実行とイベント駆動のエージェント運用

目標またはスケジュールによって駆動されるエンジニアリングタスクに、無人運用のパターンを適用する。目標に向かって動くエージェント、スケジュールに従って動くエージェント、CI/CDインシデントの一次対応などイベント駆動の対応役として動くエージェントを含み、チェックポイント、通知、エスカレーションの設計も含む。

組織全体でのコーディングエージェントの構成

コーディングエージェントを導入する組織に、エンタープライズ向けの構成を適用する。管理設定とポリシー、MCPの許可リスト、テレメトリ、ゲートウェイのルーティング、そしてチーム間でプロンプト、Skills、MCPサーバーを共有する際の品質と安全性の基準を伴うガバナンスを含む。

6. 準備の方法

必修のコースはありません。Anthropicは、特定のリソースが合格を保証するものであるとは約束しません。受験者には、本番環境での実践的な経験と以下のリソースを組み合わせることをお勧めします。

- セクション5の試験ブループリントを学習し、各目標に照らして自己評価する
- Claude Certified Developer – Foundationsの試験ガイドを確認する。この認定資格の範囲は、本試験の前提知識となります
- Claude API、Agent SDK、Claude Managed Agents、Claude Code（フック、Skills、プラグイン、ヘッドレスでの運用を含む）、MCPに関するAnthropicの公式ドキュメントとエンジニアリングガイダンスを確認し、ファーストパーティAPIでのデプロイとクラウドプラットフォームでのデプロイの違いも確認する
- 分散トレーシングとコストのテレメトリ、SLIとSLO、リリースをゲートする評価スイート、多層的なガードレール、インシデント対応とポストモーテムの実践を備えた、ツールを使用するClaudeエージェントを1つ以上、本番環境で運用する
- Professionalで求められる能力を練習する。トレースからのマルチエージェントの障害や非決定的な障害の診断、人間のラベルに照らしたLLM-as-judge評価器のキャリブレーション、Claudeワークロードのフォールバックとバックプレッシャーの設計、長時間稼働のエージェントのコンテキストポリシーとメモリポリシーの選択、フリートレベルのコストとレイテンシのモデリング、ツールを使用するエージェントのレッドチーミング、並列および無人のコーディングエージェントの実行などです
- セクション7のサンプル問題を解き、出題スタイルに慣れる

7. サンプル問題

これらの例題は、試験の出題スタイルと認知レベルを示すものです。実際の試験の問題バンクから抜粋したものではありません。正解と解説は問題の後に記載しています。

サンプル1 · 分野2 — 本番環境の統合、信頼性、知識グラウンディング

顧客向けのClaudeサービスが、失敗したリクエストをすべて指数バックオフで2つ目のモデルにリトライするフォールバックポリシーで稼働しています。モデルの更新後、チームは予期しないコストの急増と、想定より短いフォールバック応答の集中に気づきました。トレースを見ると、同じリトライ経路に3種類の停止条件が混在しています。レート制限エラー、最大出力長で停止した応答、モデルがリクエストを断った応答です。信頼性を最も改善する変更はどれですか。

A. 失敗した理由にかかわらず、より多くのリクエストが最終的に成功するよう、リトライ回数を増やし、バックオフの時間枠を広げる。

B. 停止条件に応じて分岐させる。レート制限にはバックオフしてリトライし、長さによる停止には出力の上限を引き上げ、断られたリクエストは安全性の処理経路に回す。

C. フォールバックモデルがリトライされたリクエストに応答しており、プライマリモデルは更新で変化したため、すべてのトラフィックを恒久的にフォールバックモデルに回す。

D. コストの急増を止め、障害が見えるようにするため、フォールバックを完全に無効にして、最初のエラーを呼び出し元に返す。

サンプル2 · 分野5 — 評価エンジニアリングと品質保証

あるチームは、新しい応答を現在の本番環境の応答と比較して優れたほうを選ぶLLM-as-judge評価器で、プロンプトのリリースをゲートしています。数週間にわたって候補のプロンプトはすべて合格していますが、ユーザーから報告される品質は改善していません。ジャッジの判定をサンプリングしたところ、ジャッジが人間の評価者と一致しているのはペアの半分をわずかに上回る程度で、先に表示された応答を人間よりもはるかに高い頻度で選んでいることがわかりました。チームが最初に取るべき対応はどれですか。

A. ペア比較を固定ルーブリックによる絶対評価に置き換え、ジャッジが2つの応答を並べて見ることがないようにする。

B. より強力なモデルのほうが人間の評価者と一致する頻度が高いため、ジャッジをより大きく高性能なモデルに切り替える。

C. 応答の順序をランダム化し、人間のラベルとの一致度を測り直し、一致度が許容できる水準になるまでゲートとしての権限を与えない。

D. 各候補プロンプトがもたらす小さな改善にゲートがより敏感に反応するよう、合格のしきい値を下げる。

サンプル3 · 分野7 — ランタイムガードレールと本番環境のセキュリティ

ある社内サポートエージェントは、顧客のチケットを読み、アカウント情報を含むCRMにアクセスでき、ツールを通じてメールを送信できます。レッドチーム演習で、隠された指示を含むチケットによって、エージェントが別の顧客のレコードを検索し、それを外部のアドレスにメールで送信してしまうことが判明しました。チームはすでに、チケット内にある指示を無視するようモデルに指示するシステムプロンプトを追加しています。この悪用経路を最も直接的に塞ぐ追加の対策はどれですか。

A. メールツールに宛先の許可リストまたは人間による承認を適用し、CRMへのアクセスをそのチケット自体のアカウントに限定する。

B. 顧客データの流出は禁止されており、チケットの内容を指示として扱ってはならないことを伝える、より強いシステムプロンプトの警告を追加する。

C. チケットの内容に埋め込まれた複数ステップの指示に従う可能性を下げるため、モデルのeffortレベルを下げる。

D. 宛先と添付ファイルを含め、エージェントが送信するすべてのメールをログに記録し、データの流出があれば事後に調査できるようにする。

正解と解説

サンプル1：B。3つの停止条件は異なる種類の障害であり、それぞれ異なる処理が必要です。レート制限されたリクエストをバックオフしてリトライするのは正しい対応です。一方、長さで停止した応答をリトライすると同じ切り詰めが再現されてトークンが無駄になり、断られたリクエストをリトライすると追加のコストをかけて拒否が繰り返されるうえ、不適切な場合もあります。根本原因は、区別のない単一のリトライ経路です。リトライの増加（A）はコストの急増を増幅させます。恒久的な経路変更（C）とフォールバックの無効化（D）は、分類の問題に対処しないまま、ある障害を別の障害に置き換えるだけです。

サンプル2：C。証拠は位置バイアスと人間のラベルとの一致度の低さを示しており、ジャッジの判定はまだ信頼できません。最初に行うべきなのは、バイアスを抑え（順序のランダム化または入れ替え）、人間がラベル付けしたセットに照らして再度キャリブレーションを行い、一致度が許容できる水準になるまでゲートとしての権限を与えないことです。採点形式の変更（A）やジャッジモデルの変更（B）は、後で役立つ可能性はありますが、キャリブレーションを確立するものではありません。しきい値を下げる（D）と、キャリブレーションされていないゲートがさらに甘くなります。

サンプル3：A。このエージェントは、プライベートデータへのアクセス、信頼できない入力、外部との通信経路を併せ持っているため、データの流出を防ぐうえでプロンプトレベルの指示だけに頼ることはできません。宛先の許可リスト、外部への送信に対する承認ゲート、最小権限によるデータの範囲の限定など、モデルの外部で強制される決定論的な制御であれば、注入されたテキストの内容にかかわらず、実証された経路を塞ぐことができます。より強いプロンプト（B）は強制力のある境界ではありません。effortの引き下げ（C）は機能そのものを取り除きません。ロギング（D）は検知するものであり、防止するものではありません。

8. 試験の採点方法

Claude Certified Developer – Professional試験は、基準準拠型の評価です。各受験者は、他の受験者との比較ではなく、固定された到達基準に照らして測定されます。合格するには、他の受験者の一定割合を上回ることではなく、ブループリントで定義された知識とスキルを示すことが必要です。

合格基準。合格点は、正式な基準設定調査を通じて定められます。この調査では、トレーニングを受けた対象領域の専門家が、最低限の能力を備えた受験者に期待される成績の水準を判定します。スコアは100–1,000のスケールで報告され、カットスコアは720です。

採点対象外の問題。各試験フォームには、今後のフォームで使用するために評価中の、採点対象外の問題が少数含まれています。これらの問題は明示されず、採点対象の問題と混在しており、スコアには加算されません。すべての問題に時間を配分してください。

結果の通知。結果は、合格または不合格のステータスと、100から1,000までのスケールスコアで報告されます。スコアレポートには、各内容分野であなたが正解した問題の割合も記載されます。セクション別のパーセンテージは、ご自身の成績を理解するために提供されるものであり、合否の判定には使用されません。合否は総合のスケールスコアに基づいて判定されます。

9. 申し込みと予約

申し込みと予約は、Anthropic Partner AcademyとPearsonを通じて行います。

1. Anthropic Partner Academyで受験する認定資格のページにアクセスし、試験の詳細を確認します。
2. 試験ガイドをダウンロードし、「認定資格利用規約」（Certification Terms and Conditions）と「認定試験ポリシー」（Certification Exam Policy）を確認します。
3. 「申し込む」をクリックし、試験と受験者プロフィールを確認してから、「Pearsonへ進む」を選択します。
4. Pearsonで、オンライン監督付き試験またはテストセンターを選び、日時を選択して、支払い手続きを完了します。受験料には、該当するパートナー割引が反映されています。
5. すでに申し込み済みの場合は、Anthropic Partner Academyにログインして「Pearsonアカウントへ移動」を選択すると、試験の予約や受験、結果や領収書の確認ができます。

6. OnVUE（オンライン監督付き）試験は予約時刻の1時間前まで、テストセンターでの試験は48時間前まで、キャンセルまたは予約変更ができます。それより後の変更では、受験料は返金されません。予約を変更しても、割引を含めて受験料は変わりません。キャンセルすると、Pearsonの支払い手続きで支払った金額の返金が自動的に開始され、返金には7〜10営業日かかります。2026年11月12日午前8時（太平洋時間）より前にAnthropic Partner Academyで支払った場合は、キャンセル後にAnthropicが返金します。この場合、返金までさらに数日かかることがあります。10営業日を過ぎても返金が届かない場合は、certifications-support@anthropic.comまでメールでご連絡ください。

10. 試験ポリシー

本人確認書類

試験当日は、有効期限内の、政府発行の有効な写真付き本人確認書類を提示する必要があります。本人確認書類の氏名は、申し込み時の氏名と完全に一致していなければなりません。申し込み時の氏名を訂正する必要がある場合は、試験を予約する前に、Partner Academyのプロフィール内にある受験者プロフィールでこの情報を更新できます。OnVUE（オンライン監督付き）試験の場合、更新はほぼリアルタイムで同期されます。テストセンターでの予約の場合、更新の同期は1日1回のみです。氏名は少なくとも24時間前までに更新してください。そうしないと、チェックイン時に更新が反映されていない可能性があります。**注：**氏名はご自身で1回だけ更新できます。プロフィールを確定するとロックされます。それ以降の変更については、certifications-support@anthropic.comまでご連絡ください。

受験上の配慮

障害またはニーズを証明する書類のある受験者は、適用される法律に従い、合理的な受験上の配慮を受けられます。受験上の配慮は、試験を予約する前に申請し、Pearsonの承認を受ける必要があります。申請が承認されるまで、予約をしないでください。受験上の配慮はpearsonvue.com/us/en/test-takers/accommodationsで申請してください。

再受験ポリシー

合格しなかった受験者は、所定の待機期間の後に再受験できます。待機期間は不合格の回数が増えるごとに長くなり、初回の後は14日、2回目の後は30日、3回目の後は90日です。同じ試験は、任意の連続する12か月の期間内に4回まで受験できます。上限は試験ごとに適用されるため、ある試験に合格しなかったことで、別の試験に申し込めなくなることはありません。受験料は受験のたびに必要です。

無断欠席と遅刻

予約した試験に現れなかった受験者、または許容される遅刻の時間枠を過ぎて到着した受験者は、受験料が返金されず、あらためて申し込む必要があります。キャンセルと予約変更の期限はセクション9に記載されています。

11. 試験当日の流れと受験規則

試験は、標準化され、安全が確保された、監督付きの環境で実施されます。オンラインで受験する場合も、Pearsonのテストセンターで受験する場合も、資格を保有するすべての人のために資格の信頼性を守る目的で、以下の規則が適用されます。

試験中は、次のことを守る必要があります。

- オンラインで受験する場合、セッションの間ずっと試験監督者とウェブカメラの視界内にとどまる
- 作業スペースにメモ、書籍、電話、サブモニター、その他の物品を置かない
- 試験中、他のいかなる人とも連絡や会話をしない
- 試験内容を、いかなる形式でも記録、複写、撮影、複製しない

持ち込みが禁止されている物品には、携帯電話、スマートウォッチ、スマートグラス、ヘッドホン、学習教材、あらゆる録音・録画機器が含まれます。試験監督者が提供するメモ用紙など、持ち込みが許可される物品がある場合は、Pearsonが指定します。

不正行為の結果。カンニング、禁止されているリソースへのアクセスの試み、試験内容の開示があった場合、結果の無効化、資格の取り消し、今後の試験の受験禁止のいずれか、またはそのすべての措置がとられることがあります。

12. 機密保持と秘密保持契約

契約

試験が始まる前に、機密保持および秘密保持契約に同意する必要があります。同意することにより、問題、解答の選択肢、シナリオを含むすべての試験内容がAnthropicの機密情報であり専有財産であること、およびそのいかなる部分も開示、複製、配布しないことに同意したことになります。契約に同意しない場合、試験セッションは終了し、返金は行われません。

13. 資格の維持と再認定

Claude Certified Developer – Professional資格は、授与された日から12か月間有効です。基盤となる技術は急速に進化するため、資格保有者が最新の知識を維持できるよう、資格には有効期間が設けられています。

期限内に更新するには、認定を受けてからの変更点を確認し、Anthropic Partner Academyで無料の監督なしのアセスメントを完了します。期限内の更新に費用はかかりません。資格が失効した場合、認定されたステータスを取り戻すには、正規の受験料で試験全体を再受験する必要があります。

試験内容が大幅に変更された場合、Anthropicは資格保有者に対し、再認定のために、更新アセスメントの完了ではなく試験全体の再受験を求めることがあります。

資格保有者には、セクション11に記載された受験規則が引き続き適用されます。

14. 受験者サポート、異議申し立て、プライバシー

サポート

申し込み時の氏名を訂正するには、確定する前に、Partner Academyのプロフィール内にある受験者プロフィールを更新してください。サインインやPearsonへの移動ができない、Pearsonアカウントに試験が表示されない、パートナー割引が適用されていない、プロフィールの項目を変更できない、といった場合は、certifications-support@anthropic.comまでメールでご連絡ください。試験当日のトラブル、支払いに関するその他の問題、予約、予約変更、キャンセル、受験上の配慮、結果については、Pearsonのサポート（pearsonvue.com/us/en/anthropic.html）にお問い合わせください。

異議申し立てと苦情

決定に対しては、その通知を受けた日から14日以内に異議申し立てができます。試験結果に関する懸念の場合は、試験日から14日以内です。異議申し立ては、上記のリンクからPearsonのサポートに提出してください。異議申し立ては、プログラムの異議申し立てポリシーに基づいて審査されます。基準設定の結果および個々の試験問題の内容は、異議申し立ての対象になりません。

プライバシー

申し込みおよび受験の際に収集される個人データは、Anthropicのプライバシーポリシー、Pearsonのプライバシーポリシー、および適用されるデータ保護法に従って取り扱われます。

15. 文書管理

バージョン	変更の概要	日付
1.0	初版発行	2026年11月